

漆黒の輝きに、金色の花。

名工たちの技に神が降り賜う。

●重要有形民俗文化財 高岡御車山

毎年5月1日、7基の御車山が高岡市内を巡行する。天高くそびえる心柱に、赤、黄、白の花傘、その先端には金色の鉾留。この心柱を目印に神が降臨するとされる。

御車山は、高岡開町の祖・前田利長公が町民に与えて改装させたと伝わるが、その金工品、漆工品は、江戸中期や後期にも、何人も名工が最高の技術を注いでつくってきた。

特に、二番町の車輪は、黒呂色の車輪に、桐、菊、剣梅鉢の紋、龍の金具を配し、精緻な彫金が施され、御車山金具の頂点といわれる。一番外側の桐文金具は、安永2年（1855年）ごろの作と考えられている。

昨年、平成の名工たちが、この二番町の車輪の修復を終えた。御車山は、漆のひと塗りに、鑿たがねのひと打ちに、一世一代の力をこめた高岡の職人たちの心と技をつないでいる。

今年、高岡は開町400年。利長公の命を守り続けた町人の意気と、神の座をつくった職人の誇りが、さらに華やいで、まちを巡る。

●高岡市中心市街地

5月1日巡行  
（4月30日ライトアップ）

※高岡御車山祭は、重要  
無形民俗文化財に指定  
されています。



## DETAIL OF TAKAOKA

ディテールに宿るもの

